

EC08 マスギャザリングにおける感染症対策



国立国際医療研究センター

大曲 貴夫

経歴

- 平成9年3月 佐賀医科大学 医学部医学科 卒業
- 平成9年4月 聖路加国際病院 内科 レジデント
- 平成12年1月 同 内科 チーフレジデント
- 平成12年6月 同 内科医員
- 平成13年7月 会田(あいだ)記念病院(茨城県) 内科
- 平成14年1月 The University of Texas-Houston Medical School
感染症科 Clinical fellow
- 平成16年3月 静岡がんセンター 感染症科 医長
- 平成19年4月 同 感染症科 部長
- 平成23年7月 国立国際医療研究センター病院 感染症内科 科長
- 平成24年5月 同 国際感染症センター センター長
- 平成25年11月 Master of Science in Infectious Diseases (University of London)
- 平成27年3月 医学博士取得
- 平成27年5月 国立国際医療研究センター病院 国際診療部長(兼務)
- 平成29年4月 同 副院長(兼務), 総合感染症科科長(兼務), AMR臨床リファレンスセンター長(兼務)
- 平成29年9月 同 医療教育部門長(兼務)

所属学会

日本感染症学会, 日本化学療法学会, 日本環境感染学会, 日本臨床微生物学会, 日本渡航医学会, 医療の質・安全学会, 米国感染症学会

資格

日本内科学会総合内科専門医・指導医, 日本感染症学会専門医・指導医, 日本化学療法学会抗菌化学療法指導医, ICD制度協議会認定インфекションコントロールドクター

役職

東北大学客員教授, 長崎大学客員教授, 愛知医科大学客員教授, 日本感染症学会 評議員, 日本臨床微生物学会 理事, 日本渡航医学会 理事, 日本化学療法学会 幹事

2019年のラグビーワールドカップ, 2020年の東京オリンピック・パラリンピックを控えて日本でもマスギャザリング(MG)対策に関心が高まっている。マスギャザリング(MG)の状況では人間の密集のため衛生状態は悪化し, 感染症の伝播の効率が高くなる。よって感染症の集団発生のリスクが高まる。最も関心が高いのはオリンピックなどの国際的大イベントである。しかしこのような国際的大イベントでは近年は感染症の大きな問題の報告は見られていない。歴史的にはメッカ巡礼で髄膜炎菌感染症のアウトブレイクが起こったため, 対策として髄膜炎菌ワクチンの接種が義務づけられ効果を上げている。メッカ巡礼では中東呼吸器症候群のアウトブレイクが危惧されているが, 現在のところ問題は発生していない。オリンピックではこれまで特記すべき感染症の発生は報告されていないが, オリンピックでは時には国を挙げて感染症監視体制と衛生管理体制を強化しているため防止できたのかもしれない。しかし, 草の根的に行われているマスギャザリングにおいては, 感染症の発生やアウトブレイクの発生はよく報告されている。2014年には安倍川花火大会において腸管出血性大腸菌O157による集団食中毒が発生した, 東京ではデング熱の国内発生によるアウトブレイクが起こった。日本では2015年に世界スカウトジャンボリー(山口県)に関連したスコットランド隊員およびスウェーデン隊員の髄膜炎菌感染症が発生し, 二次感染と思われる日本在住者の発症も報告された。これらの事例は, 要因が重なれば集団発生が容易に起こりうることを示している。東京オリンピックにおいても厳格な感染症の監視体制および衛生管理体制は準備される。しかし実際の発生後の対応について, 一線の医療者中心に議論し体制を構築していく必要がある。